

2017年団結旗開き

国労水戸

闘春

1月6日、水戸市内において、国労水戸地本団結旗開きが開催されました。全体で約60名が集まり交流した。

埴副委員長の司会で始まり、主催者を代表して久保田委員長より挨拶を受けた。

茨城支部辻委員長の乾杯で懇親会が始まった、春闘の取り組み、政治情勢、原発問題など、国労と共に運動していくと多くの来賓から挨拶を頂いた。最後に、お楽



国労水戸地方本部
水戸市中央1-1-11
ENYビル2F
029-221-4008
発行責任者 久保田重明
編集責任者 坂下 司

委員長あいさつ

昨年の衆議院選挙では改憲勢力3分の2以上を許す結果となった。安倍内閣は戦争法、共謀罪を成立させ、憲法に自衛隊の存在を書き込み、憲法9条の改正を目論む。世界で一番に企業が活動しやすい働き方改革に。職場では長時間労働と健康を脅かす実態がある。人間らしい働き方、安心して働ける真の働き方改革へと変えていく運動が必要です。



沖縄の新基地問題ではオスプレイなどの墜落事故など続けてあり、県民の人権を無視したものである。

東日本大震災から7年になるうとしている。福島第一原発の収束は見通しは立たない。避難指示を解除しているが住宅無償打ち切りになり被害者を見捨てる状況になる。

常磐線の復旧状況は一部運転が再開した。まだ再開に向けて労働者が働いていく。安全対策の確保のため健康診断、線量管理を行っていく。フクシマの現状を全国に訴え風化させない取り組みを継続し、脱原発・再稼働反対を行っていく。

JRの実態は、ここ数年、電気系統の設備事故

が多発している。

会社が勧める外注化・人件費削減が問題にあり設備の老朽化や、安全軽視した労働環境が過酷になり、作業員の確保や技術継承の問題など改善課題は多くある。

会社の脆弱点は安全問題であり職場総点検運動を強化しく。

会社は若手に労働組合を意識させない。

労働組合の存在意義が問われている。国労は自信と確信へと突き進む。

国民的課題と結合し、JR職場の労働条件改善、組織強化拡大に全力を挙げる。

